

[🏠](#) > [TOPICS](#) > [NEWS](#) > [ヒカルド・バセラル&アイアート・モレイラ共同制作アルバム『Maracanos』をリリース](#)

2026.05.08 | NEWS | BCSPC編集部

ヒカルド・バセラル&アイアート・モレイラ共同制作アルバム 『Maracanos』をリリース



ヒカルド・バセラル&アイアート・モレイラ共同制作アルバム『Maracanos』をリリース
歌姫フローラ・プリムも特別参加した新譜が4月24日に配信！

Maracanos

AIRTO MOREIRA • RICARDO BACELAR • FEAT. FLORA PURIM

作曲家でパーカッショニストのアイアート・モレイラと、ピアニスト・作曲家・プロデューサーとして活躍するヒカルド・バセラルが共同制作したニューアルバム『Maracanos (マラカノス)』が、Jasmim Musicから2026年4月24日に各デジタルプラットフォームにてリリースされました。

インストゥルメンタル主体の本作は、ブラジルをはじめアメリカ、ポルトガル、フランス、ドイツ、中国、日本などで世界一斉配開始となります。アルバムタイトルの「Maracanos」は、ブラジル先住民の楽器である「maraca (マラカス)」と、ポルトガル語の「nos (私たち)」を組み合わせた造語です。

一昨年から昨年にかけて行われた本作のレコーディングについて、ヒカルド・バセラルは次のように語っています。「アイアートはフォルタレーザにある私のスタジオ（ジャスミン・スタジオ）を二度訪れてくれました。

一度目はシンガーのフローラ・プリムも同行し、シングル曲『Aqui, Oh!』（配信済み）とアルバム、現在制作中の長編ドキュメンタリー映画の撮影を行いました。

二度目にフォルタレーザに来てくれた時には、アイアートと私は楽曲を書き上げ、『Maracanos』をレコーディングしました。このアルバムを作るきっかけはドキュメンタリー映画の撮影中に生まれたもので、私たち全員にとって非常に幸福で素晴らしい瞬間に満ちた時間となりました。」

アイアート・モレイラ

「現代パーカッションの父」と称されるアイアート・モレイラにとって、本作の制作プロセスは極めて刺激的なものとなりました。「すべてに満足しています。スタジオは素晴らしく、最高品質のレコーディングに必要なすべてが揃っています。演奏していない時に数秒程度歌うことはあるのですが、今回は自分の声を多用できました。私にとってこのアルバムは、寝そべて作品を作りながら同時に休息もできる心地よいベッドのような存在でした。」アイアートは今月、米ジャズ界における最高荣誉であるNEAジャズ・マスターズ・フェローシップを受賞します。これはジャズの発展に顕著な貢献をしたアーティストに贈られる称号であり、アイアートをジャズ史上最も重要な音楽家の一人に位置付けるものです。

アイアート・モレイラの原動力となっているのは「創造の自由」です。1960年代に渡米して以来、アイアートはマイルス・デイヴィス、ウェイン・ショーター、デイヴ・ホランド、ジャック・ディジョネット、チック・コリア、ジョン・マクラフリン、キース・ジャレット、サンタナ、ジョー・ザヴィヌル、ジャコ・パストリアス、アル・ディ・メオラ、スタン・ゲッツ、ジョージ・ベンソンといった、枚挙にいとまがないほどのジャズ界の伝説的アーティストたちと共演を重ねてきました。アイアートは自らの歩みを振り返って、「これら巨星たちとの共演は、私が常に創造性に対してオープンであった証です。作品を生み出すには、誰の邪魔もせず、また自分自身も混乱することなく、自らの音楽的本能を信じる必要があります。私は子供の頃からずっと自分の本能をじてやってきました」と語っています。

フローラ・プリム

1974年から1977年まで4年連続で全米批評家が選ぶ「ベスト・ジャズ・シンガー」に輝いたフローラ・プリムは、1960年代後半から公私ともにアイアート・モレイラのパートナーであり、本作の収録曲「Voo da tarde」にもボーカルに特別参加しています。

ヒカルド・バセラル

ピアニスト、作曲家、プロデューサー。ジャスミン・ミュージック (JasminMusic) レーベルを設立し、現在ブラジルで最も重要なレコーディング・スタジオのオーナーでもある。商業的に大きな成功を収めたリオのグループ「ハノイ・ハノイ (Hanoi Hanoi)」のメンバーとして長年にわたり活動。ソロアーティストとしてはベルキオールやイヴァン・リンス、ジルベルト・ジル、ファグネル、ロベルト・メネスカル、フラヴィオ・ヴェントゥリーニ、エドナルド、アメリーニャら、ブラジル音楽界の重鎮たちと共演を重ねてきた。

全米のジャズラジオチャートで、これまで2度上位にランクインしており、ヨーロッパや日本でも公演を行っている。2024年には、東京のブルーノート・プレイスを含め日本国内8か所でライブを開催した。

アルバムについて

大胆な芸術的アプローチで制作された『Maracanos (マラカノス)』は、アコースティック楽器とシンセサイザーを組み合わせ、即興演奏、重厚なハーモニー、音色の探求を調和させたサウンドデザインの中で独自の軌跡を描く作品となっています。アルバムのプロデューサーでもあるヒカルド・バセラルは、創造性と自由が本作の根幹をなしていると語っています。

「アイアートとフローラの音楽に深く根ざしている『自由』と『実験精神』、そして彼ら二人の歴史そのものに光を当てたい考えました。アコースティック音楽にパーカッション、弦楽器、電子的なテクスチャーを融合させることで、今日の音楽業界で一般的な商業モデルとは一線を画す、独創性と没入感の強い個性を持ったアルバムになりました」。

『Maracanos』にはさらに、ブラジル音楽アカデミーの会員であるリドゥイーノ・ピトンベイラが編曲を担当した2曲のレコーディングに、リオデジャネイロで活動するカリメラ弦楽四重奏団が参加しました。

その結果、型通りの構成を離れ、構造的な自由さとミュージシャン同士の自然な掛け合いを探ました作品となっています。

ドキュメンタリー映画

アルバム『Maracanos (マラカノス)』誕生のきっかけともなったジョン・トブ・アズライ監による長編ドキュメンタリー映画について、バセラルはこう言葉を寄せています。「作品は現在、仕上げの段階にあり、今年の後半には公開となる予定です。アイアートとフローラがいかに天才的かつ予測不能であり、音楽に対峙する上でいかに変わらぬ独創性と自由を持ち続けているかを収めた驚異的な記録映画になっています」。

音楽プロデューサー中原仁氏からのコメント

「今年、85歳を迎えるアイルト・モレイラは、ブラジル南部サンタカタリーナ州の出身。60年代、サンバ・ジャズを演奏するサンバランソ・トリオのドラマーとして活動を始め、エルメート・パスコアールらとの伝説のグループ、クアルテート・ノヴオを経て、60年代末に渡米した。

USAではアイアートの名でも呼ばれ、マイルス・デイヴィスのバンド、ウェザー・リポート、チック・コリアのリターン・トゥ・フォーエヴァーに参加。リーダー・アルバムも発表し、妻の歌手フローラ・プリンのバンドでワールドワイドに活動した。アイアートはブラジルの多彩なリズムを導入し、ジャズ・フュージョンのリズム面の進化に大きく貢献した、一大クリエイターだ。

ヒカルドとアイアートは、アイアート&フローラのドキュメンタリー映画を制作中のジヨム・トブ・アズレイ（『エリス&トム ボサノヴァ名盤誕生秘話』の共同監でもある）を通じて出会い、2025年、フローラを加えた3人名義で「Aqui,Oh!」のシングルをリリース。そしてこのアルバムの制作に至った。

全曲、ヒカルドとアイアートが共作した新曲で、ヒカルドのピアノ/キーボードとアイアートのパーカッションが立体的な音像を創りあげ、カラフルなサウンドが展開する。フローラ・プリンも1曲、ヴォーカルで参加している。

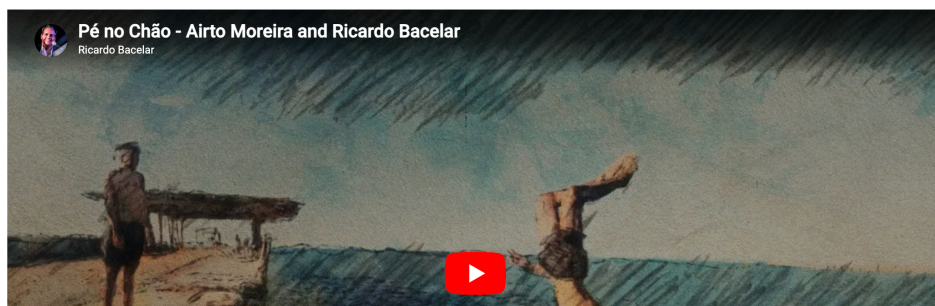
アイアートもフローラも、ジャズ、フュージョン、グローバル・ミュージックなど多彩な分野で国際的な名声を確立したが、海外生活が長かったこともあり、母国ブラジルでは、十分な評価を得ているとは言えない。このアルバムを通じてあらためて、彼らの独創的な音楽性をブラジルの人々に伝えたい、そんな、ヒカルドの真心も感じられるアルバムだ」

アルバムジャケットについて

本作のジャケットを飾るのはブラジル・アクレ州出身の美術家、フェルナンド・フランサの作品。このアルバムのために特別に描き下ろされた絵で、ブラジルとアフリカの融合を象徴する要素が描かれている。

本アルバムは、プラットフォーム (<https://ffm.to/marcanos>) で配信されます。

「プロモーション動画 (YouTube) は以下リンクよりご覧下さい :





Pe no chao

Cine Mencui mnd Riaude fhekan

【アルバム詳細】

タイトル：Maracanos（マラカノス）

1. Pe no Chao（ペ・ノ・シャン）（作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・バセラル）

アイアート・モレイラ：パーカッション

ヒカルド・バセラル：アコースティック・ピアノ、キーボード、パーカッション、ボーカル

オト・ジュニオール：パーカッション

ネリオ・コスタ：ウッドベース

パンティコ・ロシャ：ドラムスマルシオ・レゼンデ：フルートルイーザ・デ・カストロ：ヴァイオリン！

トマス・ソアレス：ヴァイオリン！！

ダニエル・アルブケルケ：ヴィオラ

ダニエル・シルヴァ：チェロ

リドウイーノ・ピトンベイラ：弦楽編曲（カリメラ弦楽四重奏団）

2. Mestre Novo da Guine（メストレノーヴォ・ダ・ギネー）（作曲：アイ

アート・モレイラ/ヒカルド・バセラル/ルイス・リマ・ヴェルデ）

アイアート・モレイラ：パーカッション

ヒカルド・バセラル：ヴォイス、アコースティック・ピアノ、フェンダー・ローズ、ハモンドオルガン、パーカッション、キーボード、エレキギター、サンプル、モジュラー・シンセサイザー
オト・ジュニオール：パーカッション

ネリオ・コスタ：エレキベース

パンティコ・ロシャ：ドラムス

マルシオ・レゼンデ：テナーサクソ、ソプラノサクソステニオ・ゴンサルヴェス：エレキギター

マリア・バセラル：ボーカルサラ・バセラル：コーラス編曲、ボーカルエリエル・フェレイラ：ボーカル

3. Bumbo Meu Boi（ブンボ・メウ・ボイ）（作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・バセラル）

アイアート・モレイラ：ドラムス

ヒカルド・バセラル：アコースティック・ピアノ、キーボード

ネリオ・コスタ：ウッドベース

マルシオ・レゼンデ：アルトサクソ、テナーサクソ、フルートステニオ・ゴンサルヴェス：エレキギター

アレックス・レイス：ハンドクラップ（拍手）

4. Voo da Tarde（ヴォー・ダ・タルジ）（作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・バセラル）

アイアート・モレイラ：パーカッション

ヒカルド・ハセラル：アコースティック・ピアノ、キーボード、モジュラー・シンセサイザー、パーカッション、エレキギター、サンプル、ボーカル

ル

フローラ・プリム：ボーカル

オト・ジュニオール：パーカッション

ネリオ・コスタ：ウッドベース

マルシオ・レゼンデ：アルトサクソフーン、フルート

5. Maracanos (マラカノス) (作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・ハセラル)

アイアート・モレイラ：パーカッション

ヒカルド・ハセラル：アコースティック・ピアノ、キーボード、ボーカル
オト・ジュニオール：パーカッション

ネリオ・コスタ：ウッドベース

パンティコ・ロシャ：ドラム
マルシオ・レゼンデ：フルート
ルイーザ・デ・カストロ：ヴァイオリン
トマス・ソアレス：ヴァイオリン！！

ダニエル・アルブケルケ：ヴィオラ

ダニエル・シルヴァ：チェロ

リドゥイーノ・ピトンベイラ：弦楽編曲 (カリメラ弦楽四重奏団)

6. Submersivos (スプメルシーヴォス) (作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・ハセラル)

アイアート・モレイラ：パーカッション

ヒカルド・ハセラル：アコースティック・ピアノ、キーボード、サンプル、モジュラー・シンセサイザー、パーカッション、ホイッスル、オカリナ

ネリオ・コスタ：ウッドベース

パンティコ・ロシャ：ドラム
マルシオ・レゼンデ：フルート

ステニオ・ゴンサルヴェス：アコースティック・ギター、12弦アコースティック・ギター

ティック・ギター

7. 3 Minutos de Paz (トレス・ミニートス・デ・パス) (作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・ハセラル)

アイアート・モレイラ：ヴォイス、パーカッション

ヒカルド・ハセラル：アコースティック・ピアノ、キーボード、サンプル、モジュラー・シンセサイザー

8. Pau Rolou (パウ・ロロウ) (作曲：アイアート・モレイラ/ヒカルド・ハセラル)

アイアート・モレイラ：ヴォイス、パーカッション、ピリンバウ
ヒカルド・ハセラル：ヴォイス、パーカッション、ダルシマー、ピーファノ (横笛)、ハンドドラム

オト・ジュニオール：パーカッション

ステニオ・ゴンサルヴェス：スライド・リゾネーター・ギター、12弦アコースティック・ギター

レコーディング：アレックス・レイス、メルク・ディアス (2024年11月、ブラジル・セアラ州フォルタレザ、ジャスミン・スタジオ)

レコーディング・アシスタント：エリエル・フェレイラ

追加レコーディング：「Voz da Tarde」のフローラ・プリムのボーカル、オトとカリメラ弦楽四重奏団

の演奏/リカルド・ディアス（2025年、リオデジャネイロ、ヴィゾム・スタジオ）

ミキシング：ルイス・オルサーノ、アレックス・レイス、ヒカルド・バセラル（ジャスミン・スタジオ）

マスタリング：カルロス・フレイタス

写真：マリア・バセラル

オリジナル絵画：フェルナンド・フランサ

ジャケット&グラフィックデザイン：MZK

プロデュース：ヒカルド・バセラル

謝辞

マノエラ、マリア&サラ・バセラル、フローラ・プリム、ルシアーナ・バルビーノ、オト・ジュニオール、ジヨム・トブ・アズライ、カルロス・デアンドラーデに感謝申し上げます。

”

Jasmin Home

”

<本プレスリリースの問い合わせ先>

ネイデ・ハヤマ

メール：neidehayama@me.com

電話：080-6580-6299




PR

ブラジル音楽歴史物語

BRASILIANA HISTÓRIA DA MÚSICA POPULAR BRASILEIRA

田中勝則 (著)

Amazonで購入



“S”の付いたブラジル情報を紹介するポータルサイト

BCSPC編集部





【来日情報】8月28日 AzymuthのAlex来日公演決定！
昨年の中止を越えてついに実現!!

第19回ブラジル&ラテンフェスティバル 7月18日と19日開催！



オススメの記事



 <p>ブラジル大使館後援：多国籍ビッグバンド「Banda Mandacarinho」が贈る奇跡の一夜...</p>	<p>— TIMELINE HIGHLIGHTS —</p>  <p>1946 The First Takeoff Our first scheduled flight took off for Cano</p> <p>【5/15までキャンペーン中！】日本からブラジルへどう行く？夏休み旅行はエチオピア...</p>	 <p>【来日情報】2026年5月 来日決定！エグベルト・ジスモンチ、10年の時を越えて再び...</p>
 <p>Castelo de Robson Miguel no Japao! ソン・ミゲル 11.16 [SUN] ingo, 16 de Novembro 音海 東高円寺 JNKAI Higashi-Koenji 開演 8:30 START 19:00</p> <p>【来日情報】ボサノヴァからフラメンコまで。異才のギタリスト、ロブソン・ミゲル...</p>	 <p>【大阪・関西万博】【36】ブラジル館でブラジル人と日本人によるアートを紹介</p>	 <p>サンパウロ到着後に買えるおすすめのお土産特集</p>

 <p>我が青春のマンガ自由共和国 【独占取材】 坂尾英矩 我が青春のマンガ自由共和国 2026.06.09</p>	 <p>エポック 日本入って誰のこと？ 映画『日本入って誰のこと？』 映画で二ホウワル了が描く海を渡った人々の記憶 2026.03.04</p>	 <p>ASATO 世界が注目するギタリスト、 マテウス・アサト、至近距離 で体感したアーティストと... 2026.03.22</p>	 <p>【独占取材】海を越えて歌う 松田善緒 INTERVIEW 山田善緒 2026.03.05</p>	 <p>【独占取材】映画『pertifican do (ヘルティフィカント)』 宮仲希平監督と主演の阿... 2026.02.09</p>	 <p>イベント導入 レポート 【レポ：行ってきた！】なぜ 若者はブラジルを目指すの か？クロストークが示した... 2026.02.07</p>
---	---	---	--	--	--

BRASIL.comS.com
ブラジル.comS.com

次世代に届けたい'S'の付いたブラジル情報サイト

	<p>音楽 レポート レビュー BLUE NOTE</p>	<p>連載 映画 グルメ インタビュー</p>	<p>EXPO2025 エチオピア航空 ブラジリアンデー ブラジル文化の達人</p>	<p>Brasil com "S" .com プレスの方へ 運営会社</p>	
<p>Instagram X YouTube icons Copyright © 2026 brasilioms.com Up arrow icon</p>					